

平成 21 年度 みんなで支える森林づくり大北地域会議（第 3 回）議事録

- 1、開催日時 平成 22 年 3 月 19 日（金） 13:30 ～ 15:00
- 2、開催場所 大町合同庁舎 301・302 号会議室
- 3、出席者
 - ・委員
浅見昌敏、川上起源、香山由人、傳刀明、郷津喜久代、山内香代子、荒山雅行、菅沢広人
 - ・北安曇地方事務所
小須田地方事務所長、中村林務課長、ほか 6 名
 - ・報道関係
大糸タイムズ、中日新聞、信濃毎日新聞、アルプスケープテレビジョン
 - ・一般傍聴
なし

4、会議事項

(1) 開会

鷹野課長補佐進行

(2) あいさつ

小須田地方事務所長

委員の皆様には、年度末のお忙しい中、当地域会議にお集まりいただきありがとうございます。また、日頃から県行政の推進につきまして、それぞれの立場からご協力を賜り、この席を借りまして、厚くお礼申し上げます。

さて、大北管内におきましては、2 年目となりました今年度も、この森林税による取り組み等を地域の方々にご理解いただく中で、間伐面積が、計画を大幅に上回る実績となる見込みでございます。

今後とも、森林整備協議会を中心とします集約化・団地化を積極的に推進すると共に、森林整備予算の確保に努めてまいりたいと考えております。

本日の会議は、今年度第 3 回目となります。会議の内容につきましては、①「信州の森林アクションプラン」の実施状況 ②「平成 21 年度長野県森林づくり県民税活用事業」の実施状況 ③「平成 22 年度長野県森林づくり県民税活用事業」の概要 をご検討いただくこととしております。

「今年度の実績」や「次年度の計画」を踏まえた形で、委員の皆さまから幅広いご意見を頂き、今後の森林税活用事業に反映させたいと思いますので、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

以上、簡単ではございますが、当地域会議に先立ちましてのご挨拶とさせていただきます。本日は、よろしく願いいたします。

(3) 議事

- 1) 「信州の森林づくりアクションプラン」の実施状況
- 2) 平成 21 年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の実施状況
- 3) 平成 22 年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の概要

(4) 意見交換

「浅見座長」

会議事項の(1)「信州の森林づくりアクションプラン」の実施状況につきまして、事務局の説明をお願いします。

「中村林務課長」

「信州の森林づくりアクションプラン」の実施状況について、資料1により説明

「浅見座長」

続きまして、(2)の平成 21 年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の実施状況について、事務局の説明をお願いします。

「三善普及林産係長、普及林産係員」

平成 21 年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の実施状況について、資料 2-1 により、それぞれ説明

「浅見座長」

引き続きまして、(3)の平成 22 年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の概要について、事務局の説明をお願いします。

「三善普及林産係長、普及林産係員」

平成 22 年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の概要について、資料 2-2 により説明

「浅見座長」

今までの説明に対しまして、意見や質問等ありましたらお願いします。

「香山委員」

アクションプランに向け団地化を進めている。面積は目標を達成しているが、切捨て間伐が多く木材生産につながっていない。

大北管内は、今まで間伐が遅れていたため品質の悪い材が多いが、間伐を推進して良質な木材を供給できる場所もあるので、活用を考えていただきたい。

品質が悪い材でも、チップ加工や燃料などへ活用も可能であるので、面積だけでなく資源として利活用を推進する必要がある。

「事務局」

現在は、面積管理だけなので、木材利用が進むような循環する仕組みづくりも考えたい。

「山内委員」

間伐材が木材として供給されそれを利用し、消費者として使うという仕組みづくりを検討してほしい。

公共事業を行う際、地域の材を使用する仕組みづくりも必要と考えられる。

地域の間伐材が、地域の木材として目に見える形でのPRが必要と思います。

「事務局」

公共木材施設への地域材使用を進めているところですが、木育予算が少ないので、利活用の分野へも予算の比重を上げていくように本庁へも伝えたいと思います。

「川上委員」

工務店の仕事もないので、間伐材利用は難しい状況です。

一昔前は、全ての材を活用できたが、現在では難しい状態です。

「浅見座長」

関連して、森林税導入に伴い、他業種から多くの方が、森林・林業の分野へ参入してきているので、継続的に事業を出していく事も県が責任を追っていかねばいけない問題だと思います。将来的なプランについて、県ではどのように考えておりますか。

「事務局」

平成 27 年度までの予算の確保は、国庫補助事業と森林税を活用しながら進みます。

さらに長期的にどうなっていくかは、不明な部分が多いですが、森林づくりは手入れが必要ですので今までどおりの予算確保を前提に進めていきたいと思っています。

「山内委員」

平成 22 年度の木育事業の里山資源活用型の実施場所はどこですか。

「事務局」

板材については、大北地域の材を使用するように、市町村へ指導しているところです。まだ、設計段階なので、設計が出来たら協力依頼をしていきます。

「川上委員」

平成 22 年度の環モデル事業の計画はありますか。

「事務局」

平成 22 年度に森林所有者、素材生産者、木材加工業者、工務店の関係者と検討しながら進めていきたい。

「山内委員」

この地域会議のメンバーを公募して増やすことは出来ないだろうか。

多くの方に、意見を言う場を与えてほしい。

「事務局」

委員の公募について、どのようにしていくか検討して行きたい。

「香山委員」

現在の森林・林業施策は、先進地を延ばす施策となっている。大北地域のような、切捨て間伐がメインとなっている地域は政策的に取り残されると危惧される。

地域の特性に合わせた予算づくりが必要となる。アクションプランの数字だけ見ると大北地域は進んでいるように見えるが、いままで手入れがされていなかった所の手入れが進んだだけであり、アクションプランの後半は、計画量確保が困難になると推測される。

「事務局」

大北地域の特性を生かした対策を検討したい。これは林業のみならず大北地域の良さを地域づくりと密着させる中で、その中の一つである森林との関りというような、広い視野での山とのかかわりを考えていきたい。

「浅見座長」

事務局からの話題提供があるそうですのでよろしくお願いします。

「事務局」

委員の皆さま 2 年間の任期が終了した旨、設置要綱で説明

「浅見座長」

2 年間の任期中の中で、地域会議のあり方・運営などについて委員の方、1 人ずつ感想を頂きたいと思います。よろしくお願いします。

「川上委員」

森林整備の関係で地域の取りまとめを行いました、自分の山が何処にあるかわからない人が多い。自分の山が分かるように親から子へ伝えることが重要。

実際問題として、山への期待が無い人が多いので管理が進まない、そこが課題と思う。

「香山委員」

地域の資源である森林をどうやって盛り上げていくかということは重要な問題で、この地域会議は、県民会議と同程度の重要性があると思います。そういう意味からも、森林税の活用についてももっと PR していくことが必要です。

ホームページでの PR を行っていますが、この地域では、ホームページを見る人が少ないので、PR 効果が低いと思いますので、色々な方法での PR を検討する必要があります。その一つの方法として、この地域会議の委員に、森林林業と関係のないジャンルでこの地域で活躍されている方を委員として入れるという方法があると思います。

「傳刀委員」

観光関係の立場から意見を言わせていただくと、森林整備は観光に取って非常にありがたいことです。ただし、これは森林税という限られた予算の中で整備されたものであり、将来にわたって観光業を営む者が森林整備に関りを持つ方法を模索して行く事が重要と思います。

「菅沢委員」

森林整備により、野生鳥獣との棲み分けが進み住民が安心できるようになった。間伐が進み大北管内が綺麗になって有難いが、作業道が少ないのでなかなか利活用が進まない。木材利用

率を上げるために、更に機械化を進めるなどして行きたい。地域の良質な材が生産できるように森林税の有効活用を更に推進していただきたい。

「荒山委員」

この地域の森林・林業をどう持っていくかを、地域材の利活用という問題も含めながら、多方面の分野から構成されている地域会議委員での議論を更に進める事が重要であると思いました。

「山内委員」

一般の県民は、この地域会議の内容を知らないと思うので、アンケートなどで意見を集約することが必要と思います。信州大学の教育学部と連携し林業再生という観点で環境学習につなげることで、将来的に先生になる立場の方に森林・林業の重要性をPRしていくことも重要と考えられます。

「郷津委員」

小谷村の梅池でウッドチップコースができて、新たな観光資源として大変ありがたいところです。しかし、山歩きに来る人は野バラやタラの芽を楽しみにしていた人もいたが全て伐られてしまったので、事前に綿密な協議がなされればもう少しいい結果になったかと思いました。

森林整備が進み見晴らしが良くなって、観光客が野生鳥獣を多く見れるようになった。そこからの弊害もあり、カモシカに遭遇し危険はないが怖いというような意見も出てきた。これからのように注意喚起をするかが課題となります。

そのようなことを踏まえ、これからは地元との調整を綿密に行ったうえで実施していただきたいと思いました。

「浅見座長」

価値がないものが売れる事が一番ありがたい。山で伐採したものを捨てないで全て利活用できればありがたい。そういう面からみれば“ペレット”は非常に期待が持てます。先行きが不安ですが、木材加工の再生ということで、大いに期待しているところです。また、公共施設での、木造建築が非常に少なくなってきたことに残念な気持ちあります。

座長として大変お世話になりました、この会議のなかで委員の皆さんの大きな意見の違いはなかったと思います。それぞれの委員が経験も背景も違う中で意見を出していただいて、それを行政がお聞きいただき、施策に反映できればいいという気持ちで努めてまいりました。

大変お世話になりました。ありがとうございました。

「中村課長」

貴重なご意見をいただきありがとうございました。次年度の会議運営の参考とさせていただきます。

最後に、北安曇地方事務所長より委員の皆さまにお礼の言葉を申し上げます。

「小須田地方事務所長」

平成20年度から2年間にわたり委員として、熱心なご意見をいただき誠にありがとうございました。この森林税も2年目を迎え、地域の皆さまにご理解いただけるようになったと思いますが、まだまだ、その活用については、検討して行く必要があるかと思います。

この2年間のご議論を踏まえ、この大北管内の森林づくりに努めてまいる所存でございます。

す。また、次年度以降もこの地域会議は続きますので、詳細事項は事務局より調整させていただきますので、その節はよろしくお願ひします。

最後になりますが、浅見座長さんをはじめ各委員の皆さまのますますのご活躍とご多幸を祈念申しあげまして、簡単ではございますが、お礼の言葉とさせていただきます。

「事務局」

それでは、以上を持ちまして「みんなで支える森林づくり大北地域会議」を閉会します。

本日は、ありがとうございました。